

# 原価計算の基礎講座

日本の製造業においては、海外企業との激しい競争環境にあります。さらに、昨今の円高など日本の製造業を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、海外企業とのコスト競争は熾烈を極めています。そのような中、製造業においては生き残りを賭けて製造原価の削減を図り、競争力を強化していかなければなりません。そのような戦略目標を達成するためのKPIとして原価管理は大変重要な要素となります。

経営のPDCAサイクルを循環させ、戦略目標を実現するためには、企業にとって原価をコントロールすることは非常に重要なことです。本稿は原価計算の基礎講座と題して、原価計算に関する基本的な内容を4回に渡ってお届けいたします。皆様の企業における競争力強化のお役に立てれば幸いに存じます。

さて、第1回の内容は、原価計算の目的についてご説明したいと思います。具体的には、下記の表1の内容をご説明したいと思います。

表1 ● 第1回の内容

1. 原価計算の目的	1-①. 原価計算の目的 1-②. 原価計算のメリット 1-③. 原価計算の位置付け
------------	--

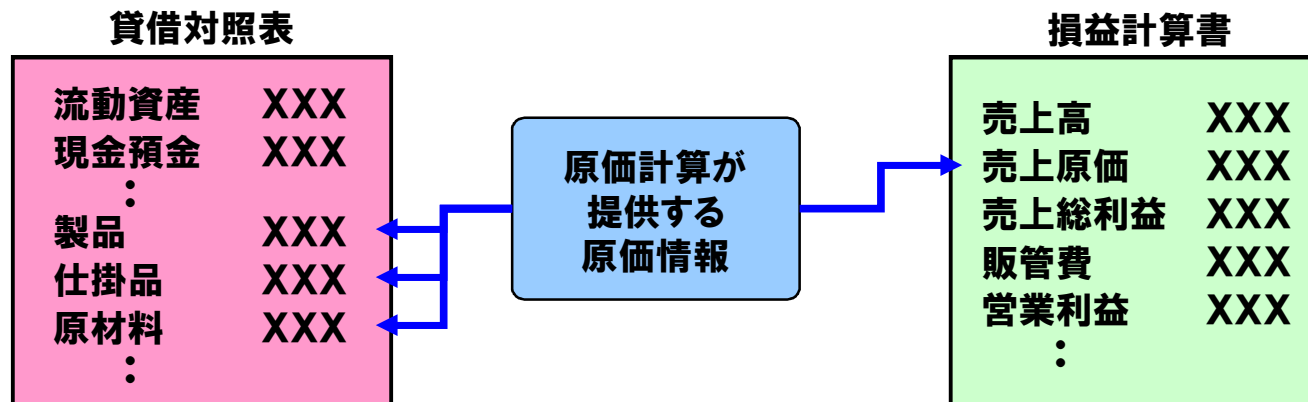
# 1. 原価計算の目的

## 1-①. 原価計算の目的

原価計算の目的としては大きく二つがあります。一つ目は『利害関係者や経営者に対して適正な財務諸表の作成や報告を行う目的』、二つ目は『各部署、各職層に対して原価管理や予算管理などの内部管理を支援する目的』です。

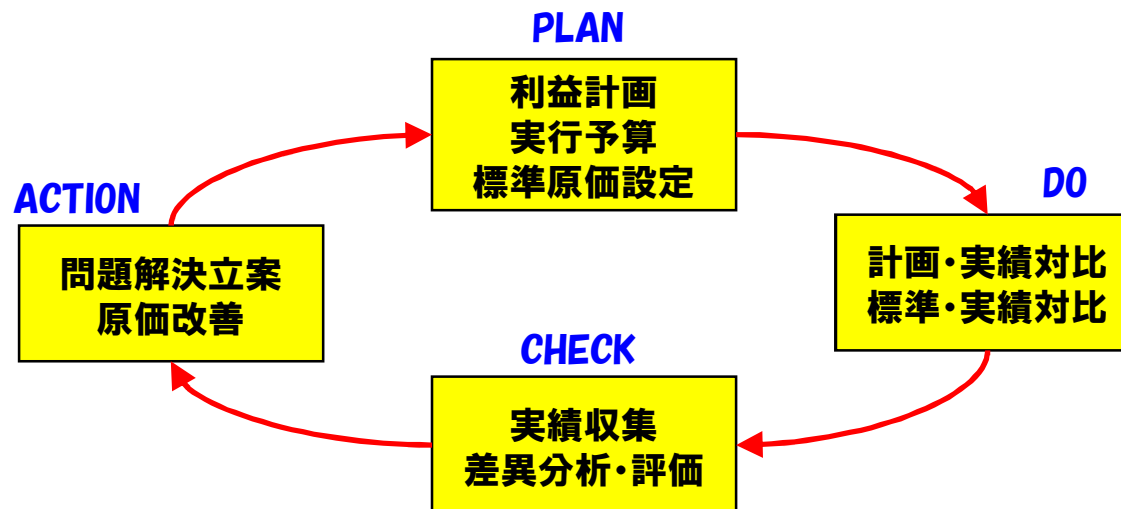
一つ目の『外部報告目的』における原価計算は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表を適正に作成するために、生産活動の実態を正確に反映した原価情報を提供しなければなりません。

図1 ●利害関係者や経営者に対しての適正な財務諸表の作成及び報告目的



つぎに、二つ目の『内部管理支援目的』における原価計算は、モニタリングの役割を持ちます。経営目標を達成するためのマネジメントプロセスであるPDCAサイクルを、らせん状に繰り返すためのモニタリングの役割となります。

図2●各部署、各職層に対しての原価管理や予算管理などの内部管理支援目的



## 1-②. 原価計算のメリット

原価計算のメリットには、A)営業部門のメリット、B)製造部門のメリット、C)管理部門のメリット、として以下のような活用効果があります。

まず、営業部門のメリットとしては、『製品・サービスの正確な原価の把握から、販売価格政策の意思決定に利用できる。』などがあります。

つぎに、製造部門のメリットとしては、『製品・サービスのコスト構造が把握でき、製造活動の改善ポイントがわかる。』などがあります。

さらに、管理部門のメリットとしては、『外部の利害関係者や経営者に対して、真実の原価による財務諸表の報告ができる。』などがあります。

その他代表的なメリットを下記の表2に記します。

表2●原価計算のメリット

営業部門	<ul style="list-style-type: none"><li>・製品・サービスの正確な原価の把握から、販売価格政策の意思決定に利用できる。</li><li>・製品・サービスの製品別の利益率が把握でき、期首の販売計画の基礎情報として利用できる。</li><li>・個々の受注案件に対して値引きの裁量が判断でき受注活動の意思決定に利用できる。</li></ul>
製造部門	<ul style="list-style-type: none"><li>・製品・サービスのコスト構造が把握でき、製造活動の改善ポイントがわかる。</li><li>・標準原価や実行予算など目標数値に対して、原価を維持するための統制活動ができる。</li><li>・内、外製の判断や加工品、規格品の判断など製造、調達活動の意思決定に利用できる。</li></ul>
管理部門	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部の利害関係者や経営者に対して、真実の原価による財務諸表の報告ができる。</li><li>・利益計画や予算編成への基礎情報の提供や月次統制への原価情報の提供ができる。</li><li>・プロダクトミックスや設備投資計画など中長期戦略への意思決定に利用できる。</li></ul>

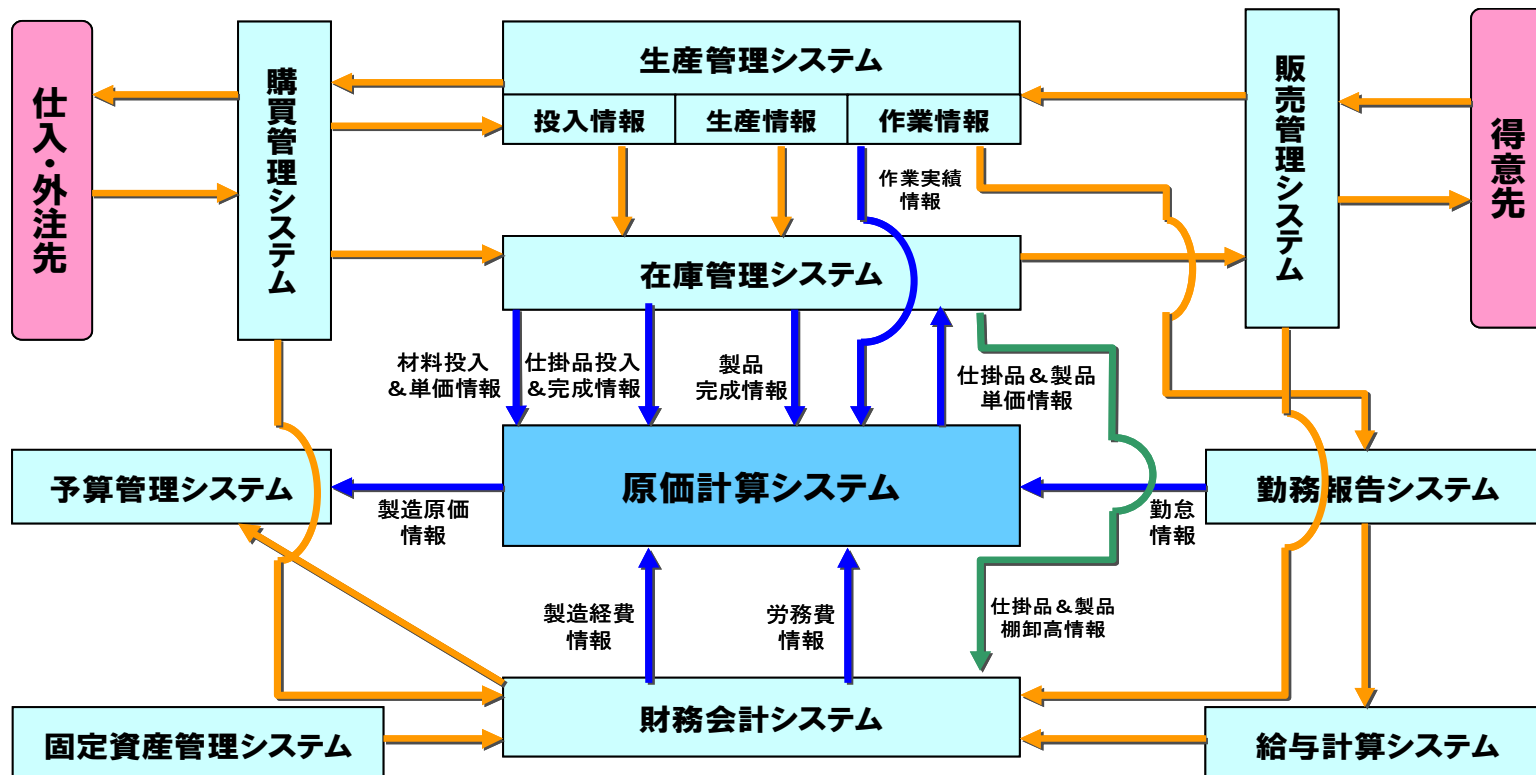
### 1-③. 原価計算の位置付け

原価計算は、周辺システムから原価情報を入手して、製品別や工程別に原価を集計し適正な仕掛品の在庫評価と製品の完成品原価を算出するシステムです。

したがって、正確な原価計算を実現するためには、生産管理システムをはじめとした各業務システムから正確な情報を収集することが重要となります。

下記の図3に原価計算システムに関連するシステムと収集するデータを記します。

図3●原価計算システムの位置付け



さて、原価計算基礎講座の第1回は原価計算の目的についてご説明をいたしましたがお役に立てましたでしょうか。本講座では、今さら人には聞けないような基本的な内容を中心としてお伝えしてまいります。

次回以降は、『原価の分類』、『原価計算の種類』、『原価計算の手続き』についてご説明いたします。

繰り返しになりますが、本講座が皆様の企業における競争力強化のお役に立てれば幸いと存じます。



トーテックアメニティ株式会社  
産業システム事業部 第1システム部 第1製造グループ  
シニアコンサルタント 高井 徹  
TEL:052-219-3211  
E-mail:Tooru\_Takai@ccgw.totec.co.jp  
URL:<http://www.totec.jp>